



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	興津12号上層(仮称)	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5				ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5				がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	1.7	/5				がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.2	/5				がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい	ふつつ	がんばろう
			4	3	3	点未満
			点以上	点以上		

3. 重点項目についての環境配慮概要			内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			得点	3.5		
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④空調・給排水配管は更新の期間を極力長くするように、仕様を選定した。	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
			3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨高効率の設備機器を積極的に採用し、BEI0.42を達成した。	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
		2			⑧	自然エネルギー利用
		3			⑨	設備システムの高効率化
		4	4.1		⑩	モニタリング
			4.2		⑩	運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型機器を積極的に採用し、節水に配慮した。	LR-2	1	1.1		⑪	節水
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
	2	2.1			⑫	材料使用量の削減
		2.2			⑫	既存建築躯体等の継続使用
		2.3			⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
		2.4			⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
		2.5			⑫	持続可能な森林から産出された木材
		2.6			⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
	3	3.1			⑬	有害物質を含まない材料の使用
		3.2	3.2.1		⑬	消火剤
			3.2.2		⑬	断熱材
			3.2.3		⑬	冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			得点	2.9		
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰高潮・津波等への対策として、受変電設備、通信・情報設備は2階に計画した。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
				2.1.2	⑯	免震・制振性能
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
				2.4.3	⑰	電気設備
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
				2.4.5	⑰	通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			得点	1.7		
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑清しみなど色彩計画に則り、港湾内外からの計画に配慮した色彩計画とした。	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			得点	2.2		
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
		2			②	まちなみ・景観への配慮
		3	3.2			⑥
■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
	LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	興津12号上屋(仮称)	階数	地上2F
建設地	静岡県静岡市清水区興津清見寺町	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	6人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年7月27日
敷地面積	10,262㎡	作成者	萩原健一
建築面積	7,130㎡	確認日	
延床面積	6,581㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
利用者にとって快適かつ機能的であるとともに、港湾の景観に調和する建物を目指した。(これは、CASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。)		建物を極力単純な形状とし、コンパクトにまとめることで、上屋倉庫としての機能性を確保するとともに、環境への負荷を抑え、港湾の景観にも配慮した計画とした。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
居室には適切な広さを確保するとともに、十分な開口を設けることで、自然採光・通風を促し、快適な室内環境となるよう配慮した。	居室は天井高2.7m以上を確保し、快適な空間とした。内装材はコストとのバランスを勘案しながら、耐久性、更新性が高く、清掃のしやすい建材を採用することで、ライフサイクルコストの低減及びメンテナンスのしやすさに配慮	清水みなど色彩計画に則り、港湾内外からの景観に彩りを与える色彩計画とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
照明は省エネ性能の高いLED照明を採用した。上屋倉庫の照明は個別で照度調整ができる機種を採用し、必要に応じて調光することで、エネルギー消費の低減に配慮した。	節水型の機器を積極的に採用した。内装の仕上げは、躯体から容易に分別できるよう配慮した。	港湾の景観及び周辺環境の保全のために、建物高さを極力抑えつつ、周囲への圧迫感を低減する懸隔とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される